

玉田 芳英

1987年8月29日（土）

奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部

調査地 奈良市二条大路南一丁目

調査期間 1987年4月～ 面積 約6,000㎡

はじめに

今回の調査区は、平城京左京三条二坊七坪の北半部にあたり、北を近鉄奈良線、西を国道24号線、南を大宮通り、東を菰川で画される。調査区の北方の八坪、西北方の一坪、西方の二坪をも含んだ地にそごうデパートが建設されることとなり、このうち約30000㎡を2年半の期間で継続的に発掘調査している。調査は昨年10月から始めて今年3月に一度目の調査が終わり（第178次調査）、4月から今回の調査を開始し、現在も継続中である。七坪の南半部を発掘した前回の調査では、奈良時代当初から二町以上を占める区画の存在が判明し、かつその中心部分がより北方にあることが推定され、以降の調査に期待が持たれていた。今回の調査では、区画が四町に広がることを確認するとともに、格式の高い建物をも検出し、七坪の土地利用状況の全容をほぼ解明することができた。

遺跡の概要

調査区の土層の基本的層序は、1mを越す盛土の下に、上から水田の耕土、床土、暗灰土（遺物包含層）が堆積し、遺構は暗灰土を除去した整地土の上面で検出した。調査区の東方では菰川に近いこともあり、整地土の粘性が強く極めて軟弱だが、西方では砂質土が混じり安定した地盤となる。

検出した遺構は、掘立柱建物60棟以上、掘立柱塀5条以上、溝15条以上、井戸13基、坪境の道路2条、土壇、鍛冶炉、和同開珎埋納遺構などである。これらは全て奈良時代以降のものであり、遺構の重複関係、配置などから8期に区分できる。

A期 奈良時代前半にあたる。掘立柱塀により敷地内を東西・南北に区画し、その塀が七・八坪及び二・七坪の坪境の小路を越えて延びる。四町が一休となる広大な面積を占める時期である。この時期は、遺構の配置関係によってA1～A4の小期に区分できる。

A1期 南北塀34、前調査区で検出した東西塀により区画する。区画内には、桁行13間、梁間2間という長大な南北建物63、南北に廂を持つと推定できる東西建物97、七・八坪境小路上に建つ建物85などがあるだけで、空閑地が多い。

A2期 南北方向に区画をする塀34を塀60につけかえ、区画を狭める。建物63は存続するが、建物85を南北建物84に建てかえる。建物63と84は東の側柱の筋を揃え、塀60との距離は10尺（3m：1尺=30cm）である。七坪全体として見ると、それ程整然とした配置ではない。

A3期 七坪における建物配置が、最も規格性を持って整然となる時期。塀60を東方に移し、塀16につくりかえる。塀16の東方には南北方向の溝15を掘り、排水溝としての機能を持たせている。A2期の建物は全て取りこわされ、区画内の建物配置も一変する。東西建物50が七坪におけるこの区画内の中心的建物と思われ、身舎の桁行6間、梁間2間、柱間が8尺で四面に廂がつく格式の高い建物である。棟通りに床束を持つので、床張りであったと推定できる。北方には、8尺の間隔をおいて桁行6間、梁間2間の一回り小さな建物51がとりつく。これも床張りで、かつ建物50と柱筋を揃える。両者は、双堂形式の一体の平面を持っている。平城京内におけるこの様な建物配置は、左京四条二坊一坪などでも確認されているが、今回検出したものは主屋の桁行が8間と、他に類を見ない立派なものである。

建物50・51の北方には、南北建物55が建つ。これは身舎の桁行6間、梁間2間で東に廂を持ち、柱間は10尺である。身舎には、南北2列の床束を持ち、やはり床張りであったと推定できる。西側柱は、建物51の西妻柱、建物50の身舎の西妻柱と柱筋を揃える。その東には、やや規模の大きい南北建物30がある。柱間は9尺、桁行10間、梁間2間で、西に廂を持つ。

A2期の桁行13間の長大な南北建物63は、規模をやや縮小して西方に移し、建物90となる。桁行は9間、梁間は2間で、柱間は10尺。建物55と同じく2列の床束を持つが、3間ごとの床束の柱穴が大きく、かつ側柱に近接した位置にある為、ここに間仕切りがあったものと思われる。建物90の西側柱には、南方から塀91がとりつく。この塀は、A3期の区画をする東西方向の塀まで伸びることが、前回の調査結果で判明している。建物90と建物50・51の間には、規模の小さい建物67・77・86を配置する。これらの建物は、東の柱筋を揃える。

建物90の西側柱、及び塀91は七坪と二坪の南北方向の中軸線上にほぼあたり、塀16までの距離は225尺、溝15までは250尺となる。また、塀16は七坪を東西に二分する位置にあり、建物30の東側柱までは30尺、建物55の東廂までは100尺、建物55と建物51の間は30尺と、いずれも完数値となり、計画性の高い配置をしていたことがわかる。

A4期 主要な建物の配置は前期とほぼ同じだが、塀による区画が変化する。建物51は取り壊され、建物50のみとなる。新たに、建物51の北側柱の位置に東西方向に塀26、同時に南北方向の塀40・60をつくり、大きな区画内を更に小さな区画に分割する。各区画内には主要な建物が一棟ずつあり、閉塞した空間を形成する。他には雑舎が数棟見られる程度である。

B期 奈良時代中頃にあたる。七坪と二坪及び八坪との間に道路を設け、敷地を一町ごとに区画する。坪境小路の幅は、南北方向の道路88が25尺（7.5m、側溝心々）、東西方向の道路12は場所によって差があり、15尺（4.5m、側溝心々）～20尺（6m、同）である。二

坪には、坪境小路の西側溝へ注ぐ排水溝が2条ある。溝95は素掘りで両岸を河原石で護岸し、溝92は溝底に埴を敷いて両岸に河原石の護岸を持つ。いずれも、京内では極めて珍しい例である。

前回の調査区では、道路88にとりつく坪内道路とその側溝を検出していたが、今回その北方にも同様の溝、道路状遺構を検出した。東西溝62・64は途中で途切れ、その東方には南北溝96があり、溝による方形の区画を形成する。その内部の施設は検出できなかった。建物は、小規模なものが点在する程度である。

C期 奈良時代後半にあたる。道路88が廃され、再び七坪と二坪が一体となり、二町以上の敷地となる。道路12も廃して四町の敷地になるかは、今回は確認できなかった。小規模な建物が数棟点在するのみで、中心的建物は西方にあると思われる。建物01・49は前回の調査区で南半部を検出していたもので、前者は桁行7間、梁間2間、後者は身舎の桁行5間、梁間2間の東西廂つきとなる。

D期 奈良時代末～平安時代初頭にあたる。坪境の道路12・88を再びつくり、一町の敷地となる。七坪内を更に細分する施設はない。二坪には坪境小路西側溝に注ぐ溝93・94がある。D1とD2の2小期に区分できる。

D1期 道路12・88沿いに建物が並ぶが、密度は薄い。七坪の西北隅の東西建物80は、身舎の桁行5間、梁間2間で南廂を持つ。

D2期 道路88沿いと坪の中央やや東側に建物が南北に並ぶ。その間は、空地となっている。

その他、時期は特定できないが、鍛冶炉がある。建物90の西北隅の柱穴採取穴を利用する様な形につくられ、埋土には大量の炭が入る。南方が浅く、焚口と推定され、北に向かってなだらかに深くなる。壁面は硬く焼けている。東の壁面には、フイゴ羽口が原位置をとどめて出土した。内部からは、フイゴ羽口、鋳型、鋳滓、燃えさしなどが出土した。鍛冶炉が、このように良好な状況で残存しているのは珍しい例である。

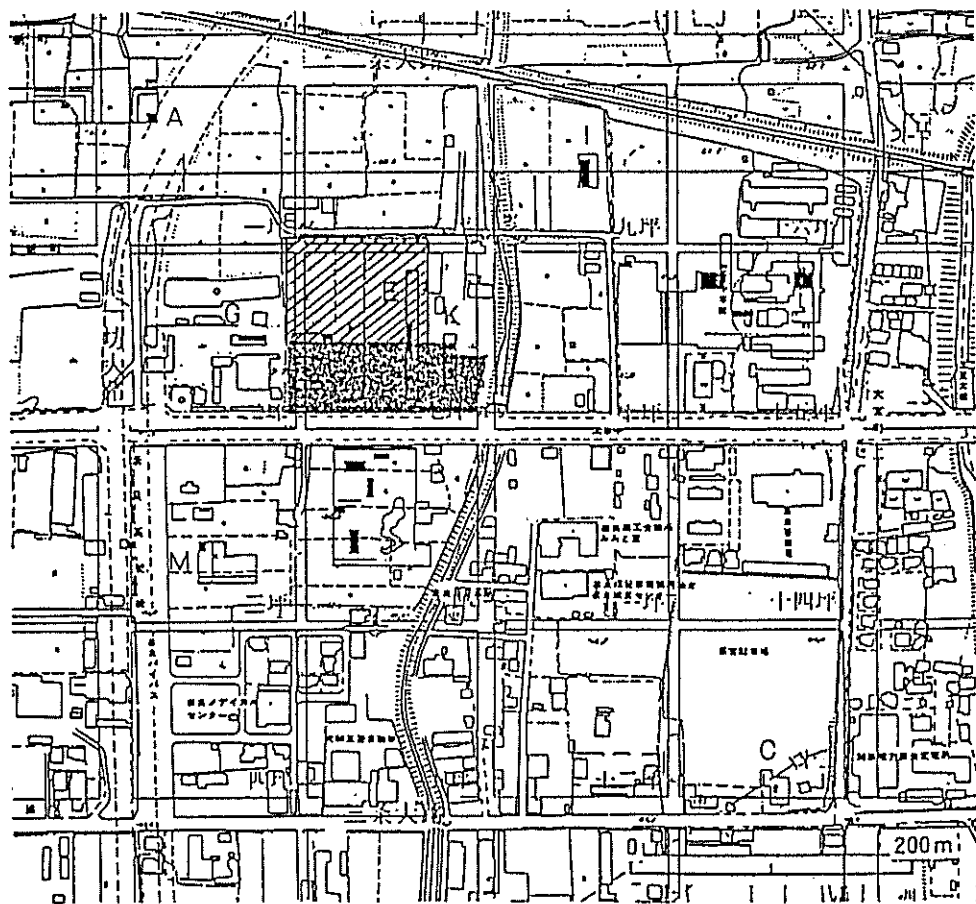
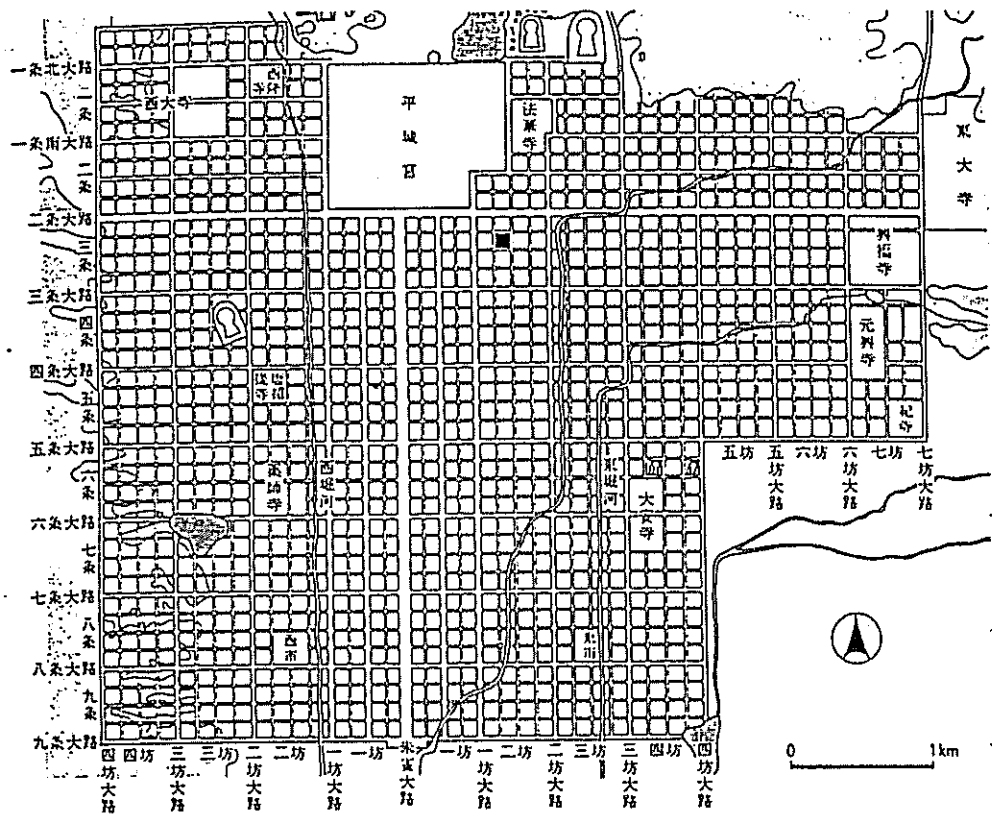
出土遺物

坪境道路の側溝を主として、多量の遺物が出土した。土器・土製品では、三彩、緑釉・灰釉陶器、ミニチュア土器、火舎の足、硯20点以上（前回調査と合わせて50点以上）、土馬10点以上、フイゴ羽口、ルツボに転用した土器などがある。瓦埴類では、軒瓦の出土が多く、300点を越える。藤原宮の瓦、平城宮の瓦、平城京の瓦と、多くの種類がある。坪境道路の北側溝からは二彩丸瓦が出土した。木製品は少なく、北側溝から人形が出土したのみである。金属製品は、和銅開珎、鋳滓、和鏡があり、七・八坪境の小路上からは、和銅開珎が97枚まとまって出土した。これは、左京四条四坊九坪にも例があり、「差し銭」の性格を持つものとして興味深い。

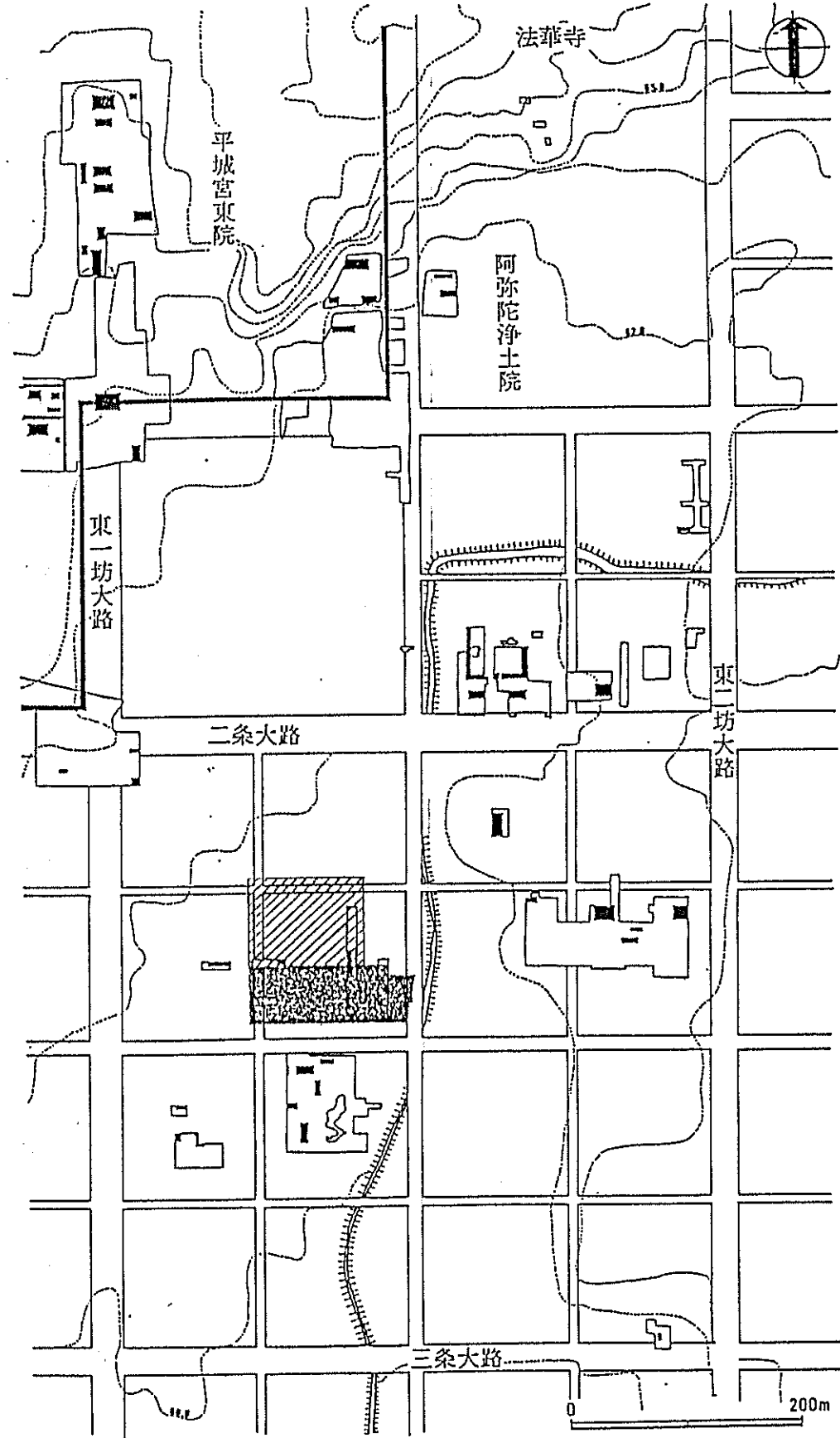
まとめ

今回の調査により、左京三条二坊七坪のほぼ全域を完掘することができた。平城京域の調査は小規模な開発に伴うものが多く、坪の全域を調査した例は数少ない。その結果、前回の調査の所見と合わせて、以下の諸点を明らかにできた。

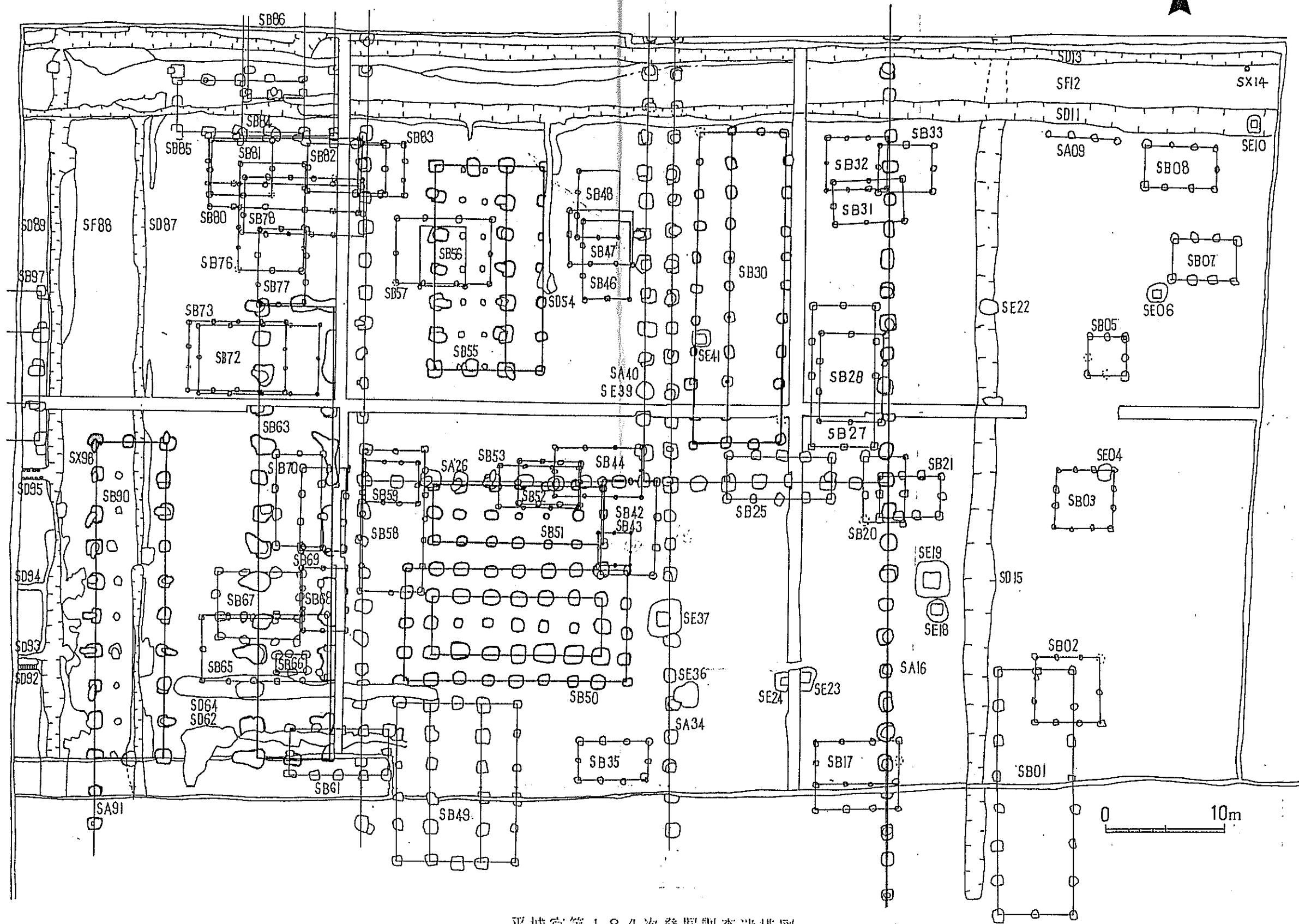
- 1) 奈良時代当初の敷地は、四町を占めていたことが確認できた。居住者は特定できないが、建物も大規模であり、相当身分の高い人物だったと見てよいだろう。
- 2) 四町を占める時期を中心として、七坪全体の遺構の配置と変遷を明らかにできた。
- 3) 奈良時代全体を通じて、七坪内を更に細分する施設は設けられず、常に一町以上の敷地を持っていたことを確認した。
- 4) 四町を敷地とする時期には、今回検出した建物以外に、より中心となる建物が北方か西方にある可能性が高い。



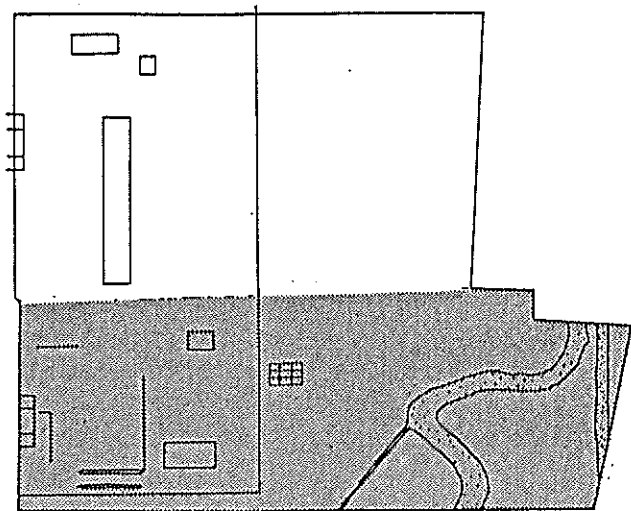
調査地位置図
(斜線部が184次調査区)



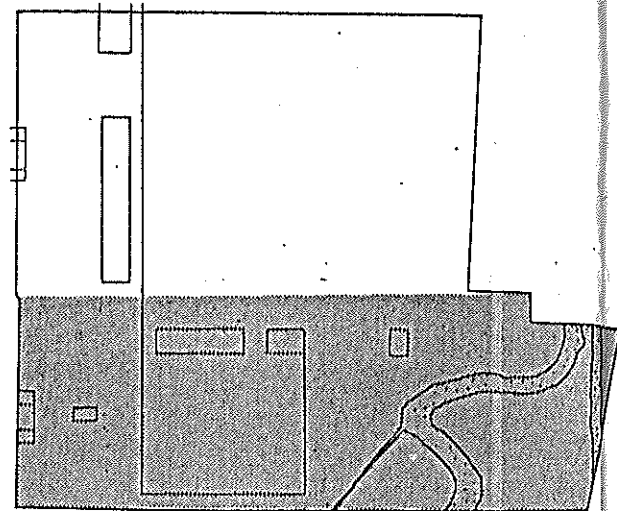
平城京左京三条二坊周辺の地形・発掘調査位置図



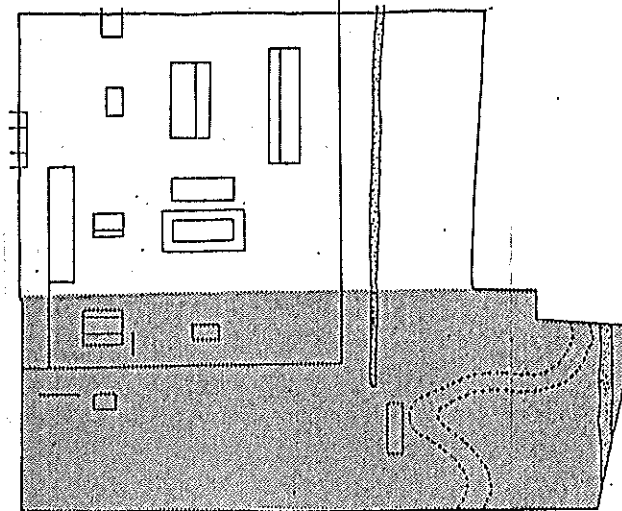
平城宮第184次発掘調査遺構図



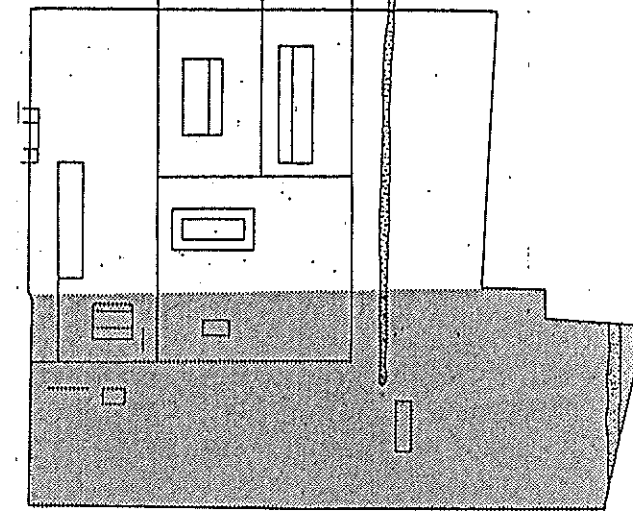
A 1 期



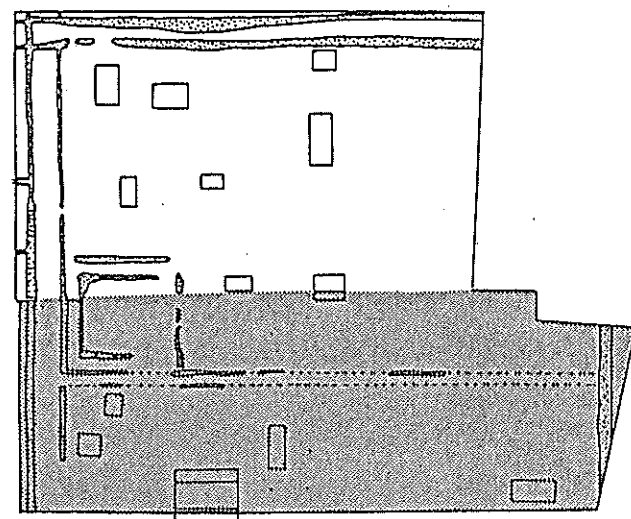
A 2 期



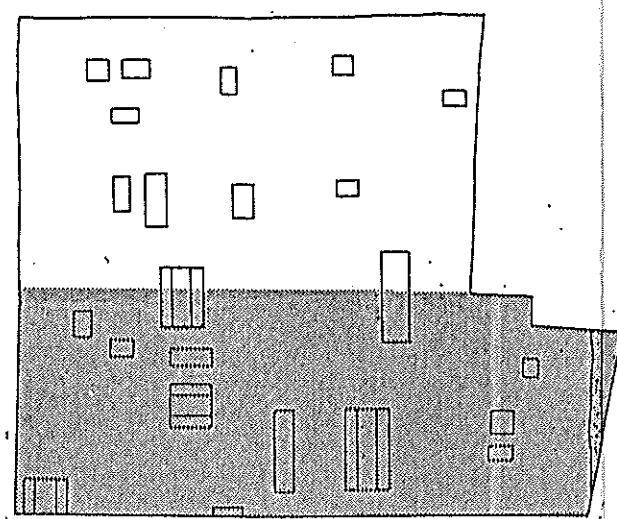
A 3 期



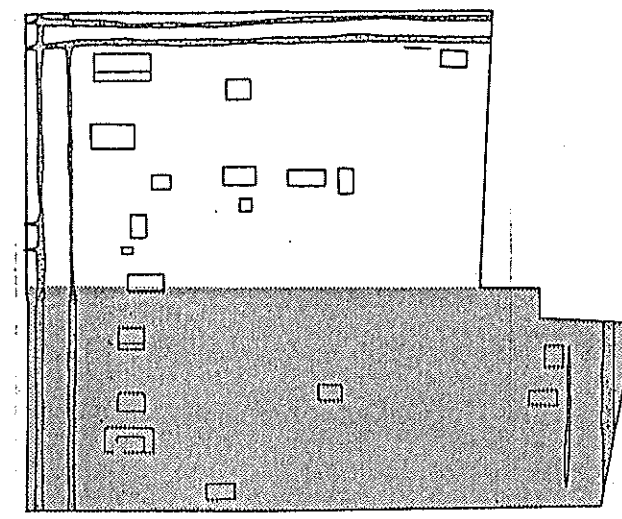
A 4 期



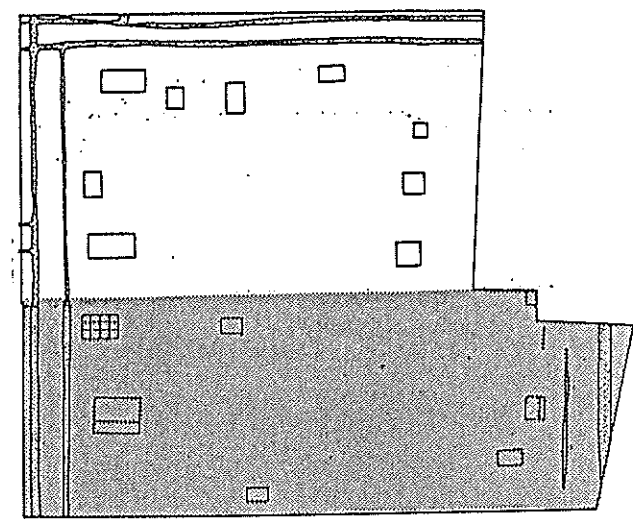
B 期



C 期



D 1 期



D 2 期

遺構変遷図（網目は第178次調査区）